礫陵新聞

編集・発行
若松高校新聞部
北九州市若松区上原町15-13
TEL (093) 751-1911
印刷所
㈱秀文社印刷(883)1234

後期生徒会役員決まる！

～出発～

生徒会長
（二年一組）
松本比佐志

生徒会に入っての目標とする事は、前期の時と変わらず、全校生徒の間の中にある生徒会をめざすことです。しかし、今度は会長という重要な立場なので、とても不安で責任を感じています。でもやるからには一生懸命がんばろうと思っています。

僕が一年生の時、思っていたことですが、みなさんの中には「生徒会はいつひらいているのだろう。」とか「生徒会があっているのを見たことがない。」という人が、かなりいると思います。そこでまず始めに、月に生徒会を何回するのかを決めて、定期的にひらき、今、学校や生徒の間では、どういう問題があるか、そしてそれをどうすればよくなるのかをできる限り考えていきたいと思っています。そして、後期生徒会退任の時までには、学校の中で、何か一つでもいいから、次回へのステップになるものをつくりたいと思っています。そして、そのためには、みなさんの協力が必要です。たよりのない生徒会だと思いますが、その分みなさんの協力をお願いします。生徒あっての生徒会です。みなさんの協力なしでは、何もできません。僕たちも精一杯がんばりますので、よろしくお願いします。

副会長
（二年一組）
松本　純枝

今度、生徒会副会長という役につきました。しかし何をすればいいのか、まだはっきりと分かっていないというのが実情です。もちろん、これから様々な仕事を学んでいきたいと思いますが、至らない所がありましたらすみません。

後期の役員の仕事は、前期と違って文化祭、体育祭などのように派手な仕事はありません。その分、地味に日常生活のことなどについて活動していきたいと思います。

とりあえず、力の及ぶ限り頑張りますので、どうぞよろしくお願いします。

副会長
（一年七組）
中村　容子

また副会長になってしまったわけですが…。

生徒会前期を役員として過ごして、もっとみなさんの前で、話せる機会がほしかったなと思っています。

副会長として、馬鹿なことばかりもやっていられないし。（本当かなー）

・・・・・・・ともかく松本会長が、すごくはりきっているので、サポートしつつ、お茶をにごしつつ、やって行きましょうか、と言うことで。

今後ともどうぞ生徒会をよろしく。

書記
（二年一組）
野正　裕子

生徒会役員になっての抱負は、「生徒の皆さんの意見をどんどん取り入れて、積極的に生徒会活動をやっていきたい」ということです。そして、文化祭や体育祭など、いろいろな行事をすべて生徒の手で行えるような、そんな学校になったらいいな、と思います。私は後期の役員なので任期中に文化祭や体育祭はありません。だから、そんな活動ができるように土台を固めていけたらなあ、と思っています。

皆さんも、どうぞ御協力をよろしくお願い致します。

西本さん　松本さん　野正さん　松本(比)くん
吉川さん　中村さん　荻野さん

書記
（一年八組）
吉川　祐子

こんにちは。なんだか、二回もこんな所に出てきてしまって、恥かしいのか、うれしいのか、よく分からないんですけど、まぁこれも、ひとえにみなさんのおかげです。さて、三年の先輩方は、受験で大変な時期ですが、がんばっていらっしゃいますか。私たち、後期生徒会は、今年、出来なかったことを、やっていきたいと思い、こまめに集まるように計画を立てました。定期的に集まって、少しずつ活動するつもりですので、先輩、来年を期待していて下さい。そして、二年や一年のみなさんも、いっしょにがんばりましょーね。

会計
（二年一組）
西本　亮子

先日行われた生徒総会の時は、いろいろありがとうございました。おかげで、生徒会会計として働くことができるようになりました。

しかし、今考えてみるととんでもないことをしたような気がしますが、こうなったからには『やるときゃやるぞ。』の精神で、実行していきたいと思っています。

とはいうものの、会計という役柄で何をすればいいのかもわからない、今日この頃ですが、生徒会で意見を出す機会がありましたら、すかさず『いらん事言い』に変身しようと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

会計
（一年八組）
荻野　貴子

皆さんのおかげで引き続き、生徒会活動をさせて頂くことができるようになりました。

三年生にとって高校での最後のイベントの卒業式が、より思い出深いものになるように、他の役員と協力していきたいと思います。

昭和64年1月 行事予定

四日	冬期課外（三年）	十九日	期末考査時間割発表（三年）
	補講（追試対象者）		二年保護者会
五日	課外（三年）	二十日	（進路指導 スキー教室）
六日	課外（三年）		
	追試	二十一日	共通一次
七日	追試	二十二日	共通一次
九日	始業式	二十三日	共通一次自己採点（三年）
十日	実力考査		
十一日	実力考査	二十六日	期末考査（三年）
十三日	模試		
	学研（二年）		公務員模試
	進研（一年）		就職模試
十五日	成人の日		適性検査
十六日	振替休日		レディネステスト（二年）
十七日	同和教育（一年 二年）		
			二次試験
	補講（三年）		出願検討会
十八日	実力考査		

二学期を振り返って

学校長　繁田治男

「乗車マナーが悪い」とか「煙草を吸っている」とか学校にとって心を痛めることが多いのです。今回の善行は、三人の女子生徒諸君が道端で大きな荷物を積んだ自転車で難渋しているお年寄りを助けて家まで送ってあげたということです。

若松地区防犯協会の暴追ポスターの特選等。ハンドボール部は地区大会で男女とも優勝を果たし県大会への出場を控えています。

サッカー部は一試合ごとに力をつけて全国大会をかけて決勝戦に臨み、敗れはしましたが健闘してくれました。全体の応援も整然と行われ、若高生の心意気に熱いものを感じました。地域の人達に大きな感銘を与えました。

次に、隠れた善意に満ちた行動があったことです。外部からの連絡、通報には余り良いことがありません。翌日そのお年寄りが学校にわざわざおいでになってお礼を申されました。困っている人を助けるということは人間が人間として生きていく上で欠くことの出来ないことです。本校の家庭クラブやインターアクトクラブの活動はこのことを実践くことができました。

前期で満足できなかった分、後期で頑張りたいと思っています。

諸君であるという自覚と誇りを育てて欲しいと思います。

三年生諸君にとってその成果が今問われています。就職は一段落してますまずの成績です。進学については推薦入試が順調な滑り出しを見せています。卒業までに残りわずかですので最善を尽くし、後輩に模範となる高校生活を送ってください。

二年生は日常の生活態度をここで点検し、気持ちを引き締め心に張りをもって学業に励んでください。気ままで楽な生活に流されるのではなく自分から乗りこえる障壁を設定してそれを克服していくことが必要です。

一年生は基礎的な学力をしっかり身につけてください。先の講演会で宇佐見氏が「五十年前にここで学んだことが今役に立っている」と述べられましたが、基礎、基本が身についていれば必要な時に応用したり活用することができます。

最後に、全校の生徒諸君がそれぞれの目標を設定しそれに向かって最善の努力を重ね充実した高校生活を送って欲しいと思います。

礫陵言

▼師走も半ばを過ぎて、ようやく冷えこみが厳しくなった。私たち釣りキチ待望の「寒グロ」シーズンの到来である。▼それにしても、最近の釣り場の汚れようはどうだ。門司の岸壁、若松の埋立・防波堤、どこへ行ってもゴミの山である。▼ゴミ籠が用意してあればゴミ籠へ、なければビニール袋に入れて持ち帰る、これが釣り人の守るべき最低のマナーであろう。それさえ守れない人に釣り人の資格はない。▼それでも、磯の場合はまだよい。幸いなことに、海には自浄作用があって、少々のゴミぐらい、海自身の持つ力によってきれいに浄められてしまうからである。▼我々人間の住む社会では、残念ながらそうはいかない。一日掃除を怠れば忽ちゴミの山だ。▼学校だって例外ではない。毎日きれいに掃除しなければ、ゴミに埋もれて授業を受けねばならぬことぐらい、誰の目にも明らかであろう。▼誰に頼むことも出来ない。この学校で働き、この学校で学ぶ若一人ひとりが、力を合わせてきれいにしていく以外に、何の方法もないのである。▼自分の出したゴミは自分で始末する、そして美しい自然の中でたっぷりと楽しむ、これが釣り人にとって最低のマナーであるように、学校においても、自分の出したゴミは自分で片付け、きれいな環境作りに協力する。これが我々教職員・生徒一人ひとりの守るべき、最低のマナーであろう。▼美しい自然・楽しい釣り、きれいな教室・楽しい授業、そんなことを夢見る釣りキチの私である。

（I・N）

全国高校サッカー選手権福岡大会　惜しくも準優勝

この度サッカー部は、全国高校サッカー選手権福岡大会において、様々な熱戦を繰り広げてきました。その結果、第一回戦は三対二で筑紫丘高校に、第二回戦は一対〇で九産大附属高校に、第三回戦は三対二で北筑高校に勝ち、決勝戦に進みました。そして、十一月五日に東海第五高との試合で〇対一と、惜しくも準優勝でした。しかし、試合に対する意気込みは、相手に引けをとらないものがありました。

質問内容

三年生部員へ

① ポジションと名前
② 東海第五高との試合について
③ 三年間、サッカー部にいて楽しかったこと・印象に残ったこと
④ サッカー部の後輩に一言

◇

① キャプテンでストッパーの秀田君
② 技術面では完全に負けていたけど、僕達は相手をうわまわる気迫で高校の三年間で一番良い試合ができました。
③ 二年の春休みにサッカー部だけでスキーに行った事が楽しかった。
④ キャプテンとしてみんなをまとめるのに苦労しましたが、この伝統を守って、後輩のみんなには僕達をうわまわるようになってほしい。

◇

① ディフェンダーの坂田君。
② 緊張とかは全然なくて、みんな明かるかった。三年生は余裕だったけど、二年生は緊張していた。みんな全力をつくした。
③ 部室で着替える時が、楽しかった。
④ 来年は優勝してほしい。

◇

① ミッドフィルダーの渡辺君。
② 二年生は初めてで、緊張ぎみだったけど、三年生は余裕があった。
③ 一年の時の新人戦優勝。
④ 来年は優勝してほしい。

◇

① フォワードの千速君。
② 相手は強かったけど、同じ高校生だし、自分達が勝つと思いました。
③ 二年の時のサッカー部だけの修学旅行が楽しかったです。
④ みんなに何もしてあげられなかったけど、サッカー部という誇りをもって又、決勝まで進むようにがんばって下さい。

◇

① フォワードの玉江君。
② 負けて悔しかった。
③ 一年の時の新人戦優勝。
④ 打倒！東海大五にがんばってほしい。

◇

① ハーフの川崎君。
② おもしろかった。
③ 一年の時の新人戦で県大会優勝。最後の試合。
④ 今年以上にいいチームになるように、がんばれ！

渡辺くん　玉江くん　川崎くん　秀田くん
千速くん、　坂田くん

先生から一言

今大会は、昨年一回戦敗退という屈辱を味わった大会でもあり、部員一同雪辱に燃えるものが感じられた。今年のチームは、昨年に比べると戦力的にはダウンしたものの、練習に励み、対外試合等を重ね、例年になく粘りのあるチームに成長し、期待と不安を抱え臨んだ大会でもあった。試合結果からも分かるように、苦しい試合展開の連続であったが、持ち前の粘りで、なんとか決勝戦までこぎ着けた。決勝戦では、戦前から苦戦が予想されたが、互角に渡り合い、幾度かのチャンスはあったものの決定力に欠け、〇対一で惜敗した。結果としては、敗れはしたものの、部員一同最後まで諦めることなく、部のモットーである〝闘志〟をむきだしに戦ったことは、賞賛に値することと思える。そして一・二年生の部員は、今年のこの悔しさを忘れることなく、更に精進して欲しいと思う次第である。最後になりましたが、応援をして下さった皆様に、この紙面を借りて、御礼を申し上げます。

本田　孝二

それでは次に、これからのサッカー部を背負っていく後輩達に、突撃レポートを兼ねてインタビューしてきました。

◇

部員の皆さんは、身の引き締まる様な寒さに打ち勝つかの様に、冬場のトレーニングに励んでいました。すみませ〜ん、新聞部ですけど〜〜。

——ちょっと待ってとってぇー。

と、白土君（キャプテン）の声。そうです、みんなはランニング中だったのでR。それからしばらく・・・それでは皆さんお待ちかねのインタビューの始まりです!!

えーと、まず、この前の東海第五高との試合について一言お願いします。

——燃えました！（ゴールキーパーの宮本君）

——相手に比べてスタミナがたりなかったし、努力に欠けていた（ディフェンダーの松本君）

——決勝で1点足りなかったのが残念だった（ハーフの永仮君）

——試合中に足がつった。吉村先生に「がんばれ!!」と言われたので「うん」と言った（ディフェンスの谷川君）

——試合中に吉村先生から注意を受けた（フォワードの田中君）

——緊張した（フォワードの中島君）

——負けたけ悔しかった！（ディフェンスの恵良君）

——負けたから悔しかった（ディフェンスの本城君）

——40分間アップしていた（笑）

と場を盛り上げるのは、やっぱりキャプテンの白土君。次は宮本君に…キーパーをしている理由は何ですか。

——目立つから（笑）。

中学の時からしてるので。

外部の声…

——石松君はサッカー部の演劇部長（笑）その石松君に、サッカーの魅力について聞いてみました!!

——1つのボールをみんなで追いかける所!!それが青春!!

練習の後、家に帰ってどんな事をしてるんですか？

——テレビ!!　ビデオ!!

勉強!!　読書!!（笑）

先輩に一言!!

——短い間だったけれどありがとうございました。

吉村先生に一言!!

——暖かい御指導を!

先生についていきます。

それでは最後に新キャプテンの抱負を聞かせて下さい!!

——伝統を受け継いでこれからもっと活躍したい！来年は優勝をねらってます。

◇

練習中の彼らを見ていて若高のサッカー部のチームワークの良さはどこにも負けないなと思いました。

サッカー部の皆さん、練習中の忙しい所、ご協力して下さって、本当にありがとうございました。これからの皆さんの飛躍を期待しています。

インターアクトの活動について

今回は、地道な活動をしているインターアクト部について紹介したいと思います。

まず初めに、インターアクト部がどのような活動をしているか、みなさんご存知ですか。インターアクト部は、地域社会に少しでも役立ち、住みやすい社会生活を一人でも多くの人が送れるように奉仕しています。具体的な活動内容は、主に老人ホームへの訪問、ユニセフの募金、清掃奉仕など幅広い範囲で行われています。今回の事で、人に対する思いやりの心について私たちも考えさせられたような気がします。これからもインターアクト部の活動を応援したいと思います。

新聞部　門司高校来たる!!

十二月十日土曜日、門司高校の新聞部の皆さんが、我が若松高校に、他校訪問として、遊びにきてくれました。部員数が、何と2名という少なさにもかかわらず、りっぱに新聞を作り上げているのです。一人が、一面を仕上げなくてはならないのですが、私達には信じられない事です。とっても明るい女の子達で、終始笑いが絶えない楽しい会となりました。

学校内を案内している時、二人の口から驚きの声ばかりがあがります。聞いてみると、まず、うちの学校は廊下が広いのだそうです。運動場が広いのにも驚かれました。何とうちの運動場の三分の一ぐらいしかないそうなのです。私達の方も驚く事ばかりでした。例えば、門司高校は、体育祭というものがないのです。だから、文化祭がとても盛り上がるそうなのです。そして、向こうは、応援団の皆さんの活躍がすごい様で、この応援団の皆さんが、門司高校の名物っぽいのです。その応援団の皆さんが、先頭に立って、校歌斉唱などはいつも、大きな声が出されている様です。ちなみに門司高校の校歌は三つあるのだそうですが、それを毎週月曜日の朝の集会で必ず歌わされるそうです。

二人の女の子達にはいろいろと笑い話しを聞かされましたが、例えば、バス停の事で、門司高校はものすごい坂の上にあるそうで、そのバス停には〝門司高校前〟と書いてあるのですがそのバス停からたくさん歩かなくてはならないから、生徒のみんなは〝門司高校ずっと前〟と付け変えて言っているそうです。

この他にも校則の事、部活の事、先生の事……。いろいろ面白い話しは飛び交いましたが、ここで御紹介できないのが残念です。

とにかく、この様な場を通じて、他校の皆さんと直に触れ合い、輪を広げることは、イコール新聞部の発展に通じると思います。これからは、私達も、機会があれば、他の学校に訪問させてもらい、皆さんに他の学校の生活風景などお伝えできればと思っています。同時に私達も、いろいろな方面に視野を広げ、もっともっとおもしろくてためになる新聞を作っていきたいと思っています。

編集後記

今回門司高校の皆さんの学校案内をさせてもらい、若松高校の歴史、風土についてをあらためて知らされましたしうちの学校には誇れるものがたくさんある事にも気付きました。本当に良い経験をしたと思います。

川村　幸子

今回の新聞は、寒い中を思いっきり走り回って作り上げた力作です。一応カメラマンをしていますので、写真に注目して下さい！

田中　利果

今回は、色々な所に行って取材出来た事がとても楽しかったです。これからももっと良い新聞作りに励みたいと思います。

井上　文子

入部して、初めての新聞作りだったので、おもしろかった。けれど、戸惑うことも多かったので、これからも、がんばろうと思う。

大成みどり

私にとって初めての新聞作りでしたので、他の部員の方々に迷惑をかけました。次回からは、はりきっていきたいと思います。

本山　増美

今回の新聞作りは、私にとって二度目だったので、前回よりは部員の人達に、迷惑をかけずに、できたような気がしました。

山田　祐子